



学校法人高宮学園 代々木ゼミナール
2019年5月31日

「リーディングスキルテスト 個人受験版Pコース」

新規実施のお知らせ

学校法人高宮学園 代々木ゼミナール（本部：東京都渋谷区／理事長：高宮英郎）は、一般社団法人教育のための科学研究所（東京都千代田区／代表理事・所長：新井紀子）が開発しました「リーディングスキルテスト（RST）」の個人受験版Pコース（小学生対象、中学生対象、高校生以上対象の3種別）を、2019年8月より実施いたします。

「リーディングスキルテスト」とは

「日本語のルールに従って教科書の文章を読むことができない生徒がいるのではないか」という仮説からスタートした「基礎的な読む力」を測るテストです。教科書などの基本的な文章はもちろん、図やグラフなどからも情報を読み取ることができるのか。「リーディングスキルテスト」では、文章に書かれている意味を正確にとらえ、新しい知識を身につけるために必要な「骨太の読む力」を科学的に測定・診断します。

「読む」力を測るリーディングスキルテスト

リーディングスキルテストとは、
「日本語のルールに従って教科書の文章を読むことができない生徒がいるのではないか」
という仮説のもと、診断法や教授法の開発を目的に設計及び調査が進められている
基礎的な「読む」力を測るテストです。

RSTとは？

RSTサポートルーム
お申込み済み・受検済みの方は
こちらからログインください
ログイン
使用後はログアウトしてください
ログアウトの仕方

（「一般社団法人教育のための科学研究所」ホームページ <https://www.s4e.jp/>）

どの教科の教科書も、学習内容は文章で説明されています。その文章を「読む」ことができれば、教科の内容を理解することは決してありません。「リーディングスキルテスト」は、人が文章を「読む」際の11の読解プロセスに着目しました。

11の読解プロセスとは、「文節に区切る」「『誰が』『何を』『どうした』のような構造を正しく認識する」「常識や知識から推論して、未知の用語の意味を位置づける」など、文章の読解に必要な力を11段階に区切ったものです。このプロセスは、文章だけでなく図やグラフといったイメージや具体例から情報を読み取る際にも適用されます。

「リーディングスキルテスト」では、「読む力」を11のプロセスに区切り、それを7つの問題タイプで多面的に測ることで、つまずきの原因となる学習スキルの習得不足、基礎的な知識の欠落、気づかない不適切な学習行動といった様々な阻害要因が見えてきます。

学習に取り組む際、そのつまずき部分に留意し、不足しているスキルを練習したり、知識を補ったりすることで、「読む力」は大きく向上するはずで、知識と技能の習得において、状況に合わせた適切な情報処理能力を発揮させることで、学力全体の飛躍的向上が期待されます。

「個人受験版Pコース」の概要

試験名称	リーディングスキルテスト 個人受験版Pコース (小学生対象／中学生対象／高校生以上対象)
対象	小学6年生～社会人
日時	第1回…2019年8月24日(土) 第2回…2019年12月7日(土) 第3回…2020年3月実施予定
試験時間	90分(ガイダンス15分+テスト75分)
受験料	4,000円(税込)
形式	CBT ※会場設置のタブレットPCを使用します。
会場	代々木ゼミナール本部長 代ゼミタワー ※会場は順次拡大予定です。

※代ゼミでは「受験」の表記で統一しています。

※第1回リーディングスキルテストの申込開始は6月10日(月)を予定しています。

<本件に関する報道関係のお問合せ先>

SAPIX YOZEMI GROUP

担当：代々木ゼミナール広報企画部(四島)

TEL：03-3379-5221

E-mail：s_shishima@yozemi.ac.jp

代々木ゼミナール Web サイト

：<https://www.yozemi.ac.jp/>